

国語

〔実施時間50分〕

注意

- 1 開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は、全て解答用紙に記入しなさい。
- 3 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- 4 解答を選択肢から選ぶ問題は、記号で書きなさい。
- 5 問題用紙は、冊子の形になっています。
- 6 問題は、表紙の裏を1ページとし、6ページまであります。開始の合図で問題用紙の各ページを確認し、始めなさい。

一 次の【本の一部】を読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

ミノムシの蛹は口から糸を吐いて、その糸で蓑の内部を作り、さらに蓑の外部を木の葉の切れ端や小枝で補強している。小さい頃から葉を食べ、移動するときには体の前部だけを蓑から出してはいるが、木の葉を食べつくすと他の木に移る。落葉後の時期になると体すべてを蓑の中に入れてしまう。

活動中にびっくりしたり、外敵に襲われそうになった際には、すぐに蓑の中に身を隠すことができるから、蓑は防衛にとって便利なものである。蓑の内部は細い糸で編まれており、蓑は壊れにくく強いことから、外敵が襲っても十分に防衛できる丈夫さがある。実際に、蓑を手で破ることは困難で、鋭いハサミを使わないと切れないほど丈夫なのである。また、蓑を周辺の小枝と似た色や形状に偽装しているので、外敵から見つかりにくい。もともと、幼虫は裸状態であるので、外敵に襲われたらどうすることもできない。そのため、①蓑という強力なシェルターで身を守っているのである。クモなら外敵が来ると糸を出してすぐ降下できるので対して、ミノムシは丈夫な蓑の中に隠れることができるのである。

ミノムシは蓑の中で冬を越すとき、蓑の上端を、木の枝に吐き出した糸で何重にも巻いてしっかりと固定しているので、枝から簡単には切り離せない。つまり、冬の蓑は野鳥のくちばしでも切り裂けないほど丈夫である。(中略)

ミノムシは生まれた直後から蓑を作るが、幼虫の尻の方に蓑を巻いており、はみ出した前方部の脚で移動する。ミノムシの幼虫の体は成長とともに大きくなるが、それにつれて蓑も徐々に大きくなる。ところで、ミノムシの蓑に対して、私は「②ミノムシは小さい時から蓑を被っており、徐々に成長するのに、体が蓑の大きさに合わなくなるとどうするのか？」と疑問に思うようになった。クモの巣の大きさはクモの成長とともにサイズが変わってくる。これは、体長に応じて張り替えている。一つは、「ミノムシもクモのように、成長とともに蓑を捨て、体に合った蓑を作り直すのでは？」と考えていた。人に聞くと、「蓑に割れ目を入れて、徐々に大きくする」という意見もあった。しかし、詳しい観察によると、生まれた直後の幼虫の頃から後方の尻部に蓑を作るが、成長するにつれてその部分が後方に移動している。つまり、大きくなった部分を作り足して、体にぴったりと合うように増築しているのであった。6月から10月にかけて何度も脱皮を繰り返し、成長するにつれて小枝や葉片をつけて蓑を拡大していく。このとき、人間でも蓑を容易に破りきれないが、ミノムシは体に合う大きさにするために、酵素や菌を使って蓑を自由に変形や拡大しているのである。

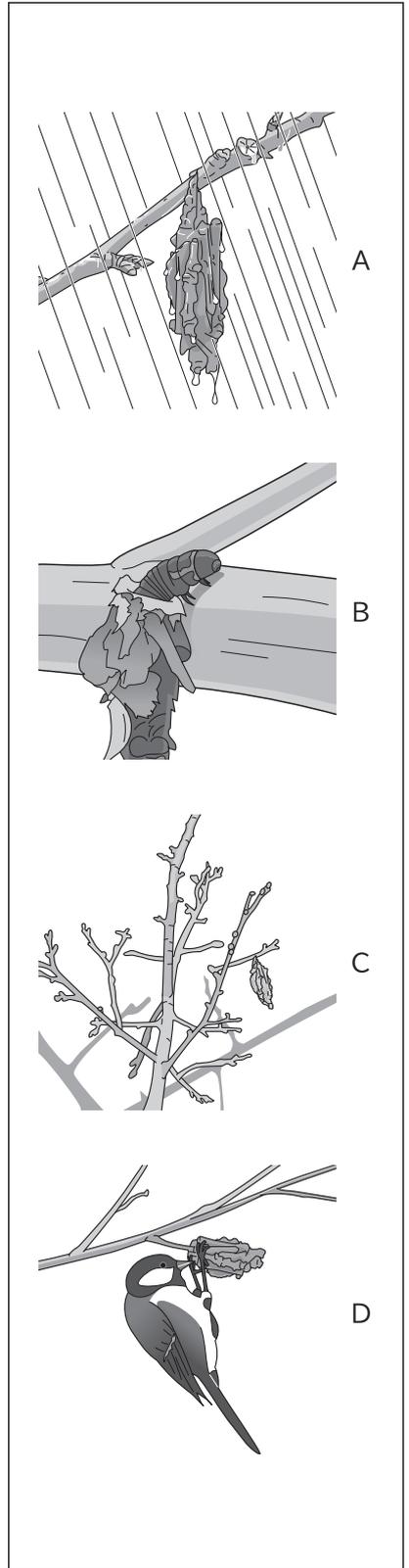
このように、幼虫の時代に作った蓑の部分を成長とともに大きくし、それを卵を産むまで使う。また、紫外線などで蓑の繊維が劣化しないように外部は枯れ木や枯葉で覆っていることが考えられる。また、蓑の外を取り巻いている小枝などの並び方は、蓑の上下方向になっていることから、雨が降っても水滴が流れやすいようになっている。これは、人の被る蓑笠や蓑の素材の方向性を見れば、雨を凌ぎやすいようなくみになっていることから納得できる。

ミノムシの口から出す命綱はミノムシが移動する際に枝や葉からぶら下がる時に出す糸である。我々はミノムシの蓑なら比較的容易に得ることができが、最初の頃は「ミノムシの命綱をどのようにして出させたらよいのであろうか？」と思いついて悩んでいた。

ミノムシの糸が欲しければ、「蓑を作っている糸から取り出せばよいではないか？」との思いもあった。しかし、長年クモの糸を調べてきた経験から、蓑から取り出した糸では力学測定には適さないと考えるに至った。糸を蓑から取り出すとなると、剝がすときに過剰の力が加わり、また、蓑を作る際にもどのような力が加わったのかも分からない。そのため、③命綱の力学測定用のサンプルとしてはふさわしくないのである。とにかく、厳密な力学測定を行うには、自重以外の余分な力が加わっていない状態にある糸が必要なのである。(中略)

最初はミノムシから強引に糸を引き出せると思っていたが、糸の先端が分ならずクモのように引き出せなかった。クモの糸のように、実験用サンプルとしては枝や棒からミノムシが自発的に糸を出して降りてくれることを祈るのみであった。そのため、実験室の端から端まで長い綿ロープを牽いて、多くのミノムシをロープに乗せることにした。その状態で④ミノムシがロープから降りるのを待つてみた。夜の10時過ぎまで辛抱強く待つていたものの、ミノムシはロープからぶら下がってくれないのだ。翌日もダメであった。(中略) 何日もチャレンジしたが、ミノムシが出してくれた糸は10mm程度と短すぎて力学強度の測定などできないのだ。クモは驚かせる命綱を出して降下するが、ミノムシは逆にロープにくっついて蓑の中に入って防衛してしまいうためか、糸取りはなかなかうまくいかないのだ。そのため、ミノムシから長い糸取りは□の連続であった。そのうちに何匹かのミノムシから測定可能な長さ50mm程度の糸サンプルを得ることができるようになった。

(注) 酵素：生物の体の中で作られ、化学反応を助けるタンパク質。
(大崎 茂芳『糸を出すすごい虫たち』による。一部省略がある。)



1 【本の一部】の空欄□にあてはまる四字熟語として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 前代未聞^{みもえ}
- イ 一心不乱
- ウ 悪戦苦闘
- エ 無我夢中

2 【本の一部】の——線部①について、【図】のAからDのうち、ミノムシの蓑の優れている点として適切ではないものを一つ選び、記号で答えなさい。

3 【本の一部】の——線部②について、このような疑問に対する答えを、「成長」「酵素」という言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

4 【本の一部】の——線部③について、ミノムシの命綱とはどのようなものですか。【本の一部】から二十七字で抜き出し、最初と最後の四字を書きなさい。

5 【本の一部】の——線部④について、筆者がこのようなようにした理由を、百字以内で書きなさい。

さやかさんたちは、国語の時間に、詩について学んでいます。次は、その時に読んだ【本の一部】と、その時の【話し合いの一部】です。これらを読んで、後の1から5までの各問いに答えなさい。

【本の一部】

人間というのは、意味の面で生きていると同時に、感情の面で生きています。この感情の面というのが、言葉ではなかなか正確に伝わりにくいんです。ね。「私は、行く。」というだけだったら、どこへもっていったって「私は、行く。」という意味は伝わるんですけど、「行く、私は。」と言うときには、状況のいかんでいろんな意味が生じうる。必ずしもすべて伝達できないかもしれない。

じつはこのようにして考えられた言葉の問題が、詩の問題としても大きなものになると思うんです。散文の場合には「私は、行く。」あるいは「行く、私は。」と書いてあっても、そのニュアンスの差異は、前後に「そのときAはBに向かつて、タバコの吸殻を投げつけながら叫んだ」というような文章があればわかるわけですけど、詩の場合、そういうことは必ずしも説明されない。「行く、私は。」の下に「！」がついてるだけかもしれない。読者のほうはいろいろ考えるわけです。考えないとこの言葉が何を意味しているかわからない。なかには芸がまじうためにわからないだけの詩もありますけれど、また非常にいい詩もあるのです。

散文の場合、論理的な意味の領域が、相対的には大きいけれども、詩の場合には非論理的な意味の領域が大きいんですね。非論理的な意味の幅が大きい。その幅の中でいろんな書き方を詩人たちがします。読者としては、ある詩人に惚れこんで、その人の作品をたくさん読んでいくと、自然にその詩人のもっている感性の論理が、非論理的な言葉を使ってあっても、つかめるようになります。この詩人はこういう感受性のあり方において、こういう非論理的な書き方をしているんだということがわかります。

しかし、①たまたまアンソロジーのようなもので一篇の詩を読んで、わかろうとするときには、むずかしい問題にぶつかります。たまたま出会った詩をたいへんに誤解しちゃって、感激してすばらしいと思ってしまうというようなおかしなことも生じる。それが決して無意味ともいえない場合もあるから、面白いのです。

どこかに引用されていた、ある詩人の作品のある一節だけを見てすばらしかった、それが忘れられないという経験はだれにでもありましよう。ところがじつは、その一節は作品全体の中ではどうっていいことない一節だったりする。

引用した人が非常にうまく引用したんですね。批評の醍醐味（たごみ）というのは、引用の妙技にあると言っているようなところがあるので、そういう見事な引用をして、読者が引用された詩を見ただけで、その詩人の名前を永久に忘れないということになれば、その引用術はすばらしかったわけです。いずれにしても詩の言葉の問題にはそういうこともあります。

とにかく、言葉を考えるうえでは、とりあえず論理的な意味が伝わればいいという言葉の領域と、それではすまされない言葉の領域があるということは認めなきゃならないと思います。論理的な言葉はどういうふうに了解されるかというところ、このお金で〇〇〇〇へ行って×××を買ってきて下さい」と言われて、言われたとおりのもを買ってこれれば、その瞬間に「買ってこれてくれ」と言った言葉は消滅していいわけです。言葉は相手に全面的に伝わっているわけですから、それが行動の結果としてわかるわけです。

ところが結果を見てもわからない領域がある。たとえば先ほどから言っている感情の領域ですね。(中略)この領域で用いられる言葉というのは相手にどう伝わったか、結果が必ずしもはっきりしません。②絶対こういうふうな受けとつてもらえるはずだ、と思つて書いた詩が、全然違つて受け止められるということがありうる。なぜかというところ、詩人は意味のある言葉を用い、できるかぎり論理的に構成して作つてもいるつもりなんです。③彼が実際に目的としているのは、単なる論理的な意味の伝達だけでなく、もっと混然とした伝達なんです。相手の感性に対して自分の訴えたい思いを言葉を通して訴える、ということなんです。

こういう言葉の領域では、相手はどう受けとつたかということ、相手の行為に明確な結果としては出てこないから、わからない。たまたま何年も後に「きみが書いたのはそういう意味だったのか。ぼくはこういうふうな受けとつていたよ」などと言われて仰天するわけです。そして相手に説明を訊くと、なるほどそれも読めるように自分は書いている、結局、詩がまずいからそうなるしまったんだということになる。

(注) ニュアンス：言葉の意味合い。アンソロジー：様々な作家の作品を集めたもの。

(大岡 信「詩・ことば・人間」による。一部省略がある。)

【話し合いの一部】

さやかさん：詩の表現技法については、授業で習ったね。比喩は、表現技法の

中でも代表的なものだったね。

しずまさん：そうだね。比喩の一つで、「君はまるで星のように輝いている。」

というように、「まるで」や「ように」などを使つてたとえるも

のは I 喩と言つたね。

つくしさん：そうだったね。そうした言葉を使わずにたとえるのが「隠喩」だつ

たね。比喩のほかにも、【本の一部】の「行く、私は。」のような、

II という表現技法もあるよ。

しずまさん：普通とは語順を逆にすることで、印象を強めることができるん

だったね。「行く、私は。」という表現を使うことに対して、【本

の一部】の筆者は「状況のいかんでいろんな意味が生じうる」と

言っているよ。

さやかさん：こうした言葉の問題について、【本の一部】の筆者が「詩の場合に

は非論理的な意味の領域が大きい」と言っているのがおもしろ

かったよ。感受性のあり方など、感情の領域は論理的な言葉だけ

では伝えきれないんだね。

つくしさん：そうだね。【本の一部】の——線部③には、詩人について、

「実際に目的としているのは、単なる論理的な意味の伝達だけ

でなく、もっと混然とした伝達なんです」とあるよ。これは

III ということだよ。

しずまさん：言葉を使うというのは難しいことだね。言葉の使い方は間違つて

いなくても、相手に自分の意図が伝わりづらいこともあるよ。【本

の一部】の筆者が——線部②で言っているのも、そういうこ

となんだらうね。

1 【本の一部】の——線部①について、「むずかしい問題」とはどのような問題ですか。五十文字以内で書きなさい。

2 【話し合いの一部】の空欄 I にあてはまる適切な漢字一字を書きなさい。

3 【話し合いの一部】の空欄 II にあてはまる適切な語を書きなさい。

4 【話し合いの一部】の空欄 III にあてはまる内容として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手に伝えたいことには論理的な意味も非論理的な意味もあるため、表現方法を使い分けていくことが求められる

イ 相手に伝えたいことが非論理的な意味でも、相手のもっている感性に沿って論理的な言葉で伝達する必要がある

ウ 自分の言いたいことは論理的に説明できても、表現を豊かにするために非論理的な言葉を使うことを心がけている

エ 自分の言いたいことは論理的な言葉だけでは伝えられないため、非論理的な言葉で相手の感性に訴えかけている

5 【話し合いの一部】の——線部について、あなたは相手に自分の意図が伝わるように、どのように気をつけているかを、次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

条件1 具体的な例を挙げ、どのように気をつけているかを書くこと。ただし、【本の一部】や【話し合いの一部】に出ている具体例以外を用いること。

条件2 原稿用紙の正しい使い方にしたが、百字以上、百四十字以内で書くこと。

三

次の1から4までの各問いに答えなさい。

1 次の①から⑤までの文中の——線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

① 対応策をトウギする。 ② セイケツなタオルを使う。 ③ 女性が唇にベニを塗る。

④ 新説をトナえる。 ⑤ 問題がシンコクになる。

2 次の①から⑤までの文中の——線部の漢字の正しい読みをひらがなで書きなさい。

① 難しい任務を遂行する。 ② 褒められて謙遜する。 ③ シャツの襟を正す。

④ 滑らかな口調で話す。 ⑤ 新しい技を披露する。

3 次の文章を読んで、後の①と②の各問いに答えなさい。

チンパンジー属とヒトがAいちばん近いとわかったので、オス同士が連帯しているというか、つき合いながら社会を作っているということが最後の共通祖先の社会の特徴として浮かび上がったのです。ゴリラやテナガザルとはそのへんが違います。

ゴリラは一夫多妻集団が社会の単位です。集団の縄張りはあまりはつきりしないのですが、オランウータン同様、大人のオス同士はやっぱり仲が悪いです。一緒にいることがBまったくできない。

動物園の中では、一応オスを二頭一緒に飼うことはできるんです。ところがそこにメスを入れたらそれとたんにケンカになって、絶対妥協しないそうです。

その点、チンパンジーもケンカはしますが、それでも一応妥協できるわけです。複数のメスと複数のオスで集団を作っているわけですから。

最近になってDNAによるチンパンジーの父子判定の結果がCやっと出てきました。DNA分析をした井上英治君によると、第一位のオスはやっぱり子供が多いのです。でも第二位や第三位以下も子供を全然作っていないわけではない。だから第一位のオスもメスを完全に独占はしないで、一応は妥協しているわけです。

だからわれわれとチンパンジー属の共通祖先はDおそらく、チンパンジー型の複数のオスのいる集団を形作っていただろうというのが、私の考えです。

(西田利貞『チンパンジーの社会』による。)

① ——線部AからDまでの語について、語と副詞の種類を組み合わせが適切でないものを次のAからEまでのの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A A—程度 I B—状態 ウ C—状態 E D—陳述(呼応)

② 文章中の空欄□にあてはまる言葉として最も適切なものを、次のAからEまでのの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A または I だから ウ ただし E そして

4 次の【和歌】を読んで、後の①から③までの各問いに答えなさい。

【和歌】

A 熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな

額田王

(『万葉集』)

B 忍ぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで

平兼盛

(『拾遺和歌集』)

(注) 熟田津：現在の愛媛県松山市付近の港。

① 【和歌】 Aの——線部を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

② 【和歌】 Bから、発言部分を抜き出して書きなさい。

③ 【和歌】 A・Bの説明として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Aは、船の出発に際してはやる思いを詠んでいるのに対して、Bは、他人の言葉で自分の思いの強さに気づかされた驚きを表現している。
- イ Aは、船旅への不安をもとに歌が作られているのに対して、Bは、他人に指摘されて恋をあきらめなければならぬつらさを詠んでいる。
- ウ Aは、船で旅立つ人を心配する思いを詠んでいるのに対して、Bは、打ち明けた恋心を他人にからかわれる気恥ずかしさを表現している。
- エ Aは、旅を見守るように光る月の美しさを詠み出しているのに対して、Bは、隠していた思いを相手に見抜かれたあせりが詠まれている。

